

明治・大正期における霧島御鉢火山の噴火災害

Volcanic hazards of the Ohachi Volcano, Kirishima, during the end of 19th century to early 20th century.

井村 隆介[1]

Ryusuke Imura[1]

[1] 鹿大・理・地球環境

[1] Earth and Environmental Sci., Kagoshima Univ.

霧島御鉢火山は、「長門本平家物語」にもその活動が記録されている（井村，2003），日本でも活動的な火山の一つである。明治時代には，その活動の活発さから，鹿児島県の七不思議に数えられていたほどである（奈多，1890）。しかし，その活動の実態についてはよくわかっていない。本研究では御鉢火山の1800年代後半から1900年代前半の噴火の実態について，残されている写真，絵画，新聞記事などから検証することを試みた。その結果，当時の御鉢火山は爆発的な噴火を繰り返し，周辺の広い範囲に火山灰を降らせていたことがわかった。これらの活動によって人的被害も生じていたが，それらは，登山客や猟師など火口に近いところに偶然いた人たちである。御鉢火山には現在も多くの登山・観光客が訪れており，噴火の際には，まずこれらの人たちの速やかな避難が重要であると言える。